

中部地域には風光明媚な自然、歴史的な大事件の舞台となった場所等が多く存在し、映画やドラマのロケ地として使用された場所が多くありますが、それらを地域の活性化に結びつけたり、観光の資源として活用する動きが必ずしも十分でないと言われています。調査季報「中部圏研究」では、こうした地域が情報発信を行い、その後の活性化につなげている事例取材し紹介していきます。第2回目となる今回は、滋賀県犬上郡豊郷町の事例をご紹介します。

【事例2】

アニメ「けいおん！」でまちおこしプロジェクト（滋賀県犬上郡豊郷町）

ファンの“居場所”を観光資源に 豊郷小学校旧校舎群への聖地巡礼を育てる町

財団法人中部産業・地域活性化センター

客員研究員 坂口香代子

かつて「東洋一の教育の殿堂」と謳われた、アメリカ人建築家・ヴォーリズの設計による小学校の旧校舎が滋賀県犬上郡豊郷町にある。1937年（昭和12年）に建てられたこの校舎は、1999年（平成11年）から数年間、老朽化と耐震性問題を発端に、町を二分する解体・存続騒動に揺れた。結果的には、小学校としては別に新校舎が建設されたものの、旧校舎も改修による保存が図られ、2009年からは町立図書館などが入る社会教育・福祉施設として活用されている。そしてこの再出発は、小さな町に遠方から人々を呼びよせる思わぬ副産物を豊郷町にもたらした。旧校舎が、爆発的な人気を誇るアニメ「けいおん！」に登場する高校のモデルではないかとファンの間で話題となり、「聖地巡礼」と呼ばれる観光ブームが起こったのである。このブームは一見、“期せずして”始まったようだが、実はそこには地域の若手有志によるまちおこし戦略がしっかりとあった。



1. 豊郷小学校旧校舎群とアニメ聖地巡礼

アニメ聖地巡礼とは

近年、観光の一つの大きなカテゴリーとして注目を集めているのが「聖地巡礼」である。映画やドラマのロケ地、あるいはマンガやアニメ、小説などで描かれた風景や場所を、ファンたちが「聖地」と呼び、そこを探訪するのだ。なかでもアニメファンによる「アニメ聖地巡礼」は特に活発で、巡礼（リピーター）率が非常に高いことも特徴である。

ファンの間で始まった 人気アニメ「けいおん！」の舞台探し

そんなアニメ聖地巡礼地のひとつとして、人口1万人にも満たない小さな町・滋賀県犬上郡豊郷町（資料2）にある「豊郷小学校旧校舎群」が、アニメファンの間で一躍脚光を浴びるようになったのは2009年の初夏のこと。

「1937年（昭和12年）築の町立豊郷小学校の旧校舎は、日本で多くの近代建築を手がけたウィリアム・メレル・ヴォーリズ設計による名建築で、2004年にそのすぐ隣に新校舎を建設以降、しばらくはそのまま閉鎖されていたのですが、新たに教育・福祉施設として再活用することが決まり、2008年10月から2009年3月まで、改修工事が行われていました。その改修工事も無事終わり、5月30日の一般公開を控えて準備が進められていた4月のある日、豊郷小学校出身の一人の友人から私のところに連絡がありまして、彼は、『旧校舎がアニメに登場している！』と興奮気味に言うわけです。しかし、私はアニメに興味がなく、彼の言っていることが正直よくわからない（笑）。だからその時は『へえ〜』で終わったんです。」

そう語るのは、現在、豊郷町役場産業振興課の清水純一郎さん。清水さんが当初、友人の話をごく他人事のように聞いてしまったのには他にも

【資料1】

【人気アニメ「けいおん！」とは】

マンガ家・かきふらい作の同名の4コマ漫画を原作に、TBS系列で放送されたテレビアニメ。私立桜が丘高校の廃部寸前の軽音楽部を舞台に4人の女子高校生たちがガールズバンドを組み、ゼロから音楽活動を行っていくストーリー。2009年4月～6月に第1期シリーズ、2010年4月～9月に第2期シリーズが放送された。いずれも深夜アニメであるが、主人公たちが歌う主題歌がCD売り上げ1位になり、登場するギターやヘッドホンが人気を集めて価格が急騰するなど社会現象化。2011年12月には映画が全国公開予定。

【資料2】

【豊郷町の概要】

所在地：滋賀県犬上郡豊郷町
面積：7.82平方キロメートル
人口：7,449人（男性3,637人、女性3,812人）
世帯：2,764世帯

（2011年8月現在）

琵琶湖を擁する滋賀県の東部、いわゆる湖東地方の犬上郡に位置する人口約7,450人の小さな町。「豊郷」の名は、郷土の豊穰を願って命名されたもの。大きく開けた平野部は古くから穀倉地帯として存在し、今も緑豊かな田園風景が町全体を取り巻いている。また町の中央を通る旧中山道（東山道）の古い町並みは、この地が交通の要衝として栄えていたことを物語る。人や物が盛んに往来していた豊郷の風土は、現在の伊藤忠・丸紅の創始者である伊藤忠兵衛など商才に長けた近江商人（※1）を生み、育て、日本全国へと輩出。日本を代表する多くの企業の礎を築いた地である。

（豊郷町役場資料より）



（※1）近江商人の町として、一般的には近江八幡が有名だが、それぞれ特定の地域から発祥した高島商人、八幡商人、日野商人、湖東商人などがあり、それらを総じて近江商人と呼び、活躍した場所や取り扱う商品にもさまざまな違いがある。

理由がある。彼自身は豊郷にあるもう一つの小学校の出身。豊郷小学校旧校舎が歴史的建造物であるとはいえ、普通の小学校として活用されていた時に関係者以外が立ち入るといことは原則ないため、友人が「そっくりだ」と指摘する校舎内のさまざまな光景を具体的に思い浮かべることができなかった。また、通常、アニメの聖地巡礼は、その地域の人が気付く前にファンの来訪により突如始まることが多いが、豊郷の場合、「けいおん！」の放送がスタートした2009年4月時点は、「豊郷小学校旧校舎群」はまだ一般公開前で建物が完全にクローズされていた期間。そのため、実際の来訪はなく、インターネット上ではすでにファンたちの間で「豊郷小の旧校舎が主人公たちが通う桜が丘高校のモデルではないか？」と話題になっていたものの、それを知る由もない清水さんの中では、アニメと旧校舎の建物との関係が容易には結びつかなかったのだ。

「しかし、そんな私を動かしてくれた人物がいます（笑）。弟です。私は前に、埼玉の鷲宮町（現在は久喜市）が、アニメ「らき☆すた」の聖地としてまちづくりに取り組む記事を読んだことがあったのですが、その時は『すごいところがあるんやな』といった感想しか持っていなかったんですね。友人からかかってきた電話で、たまたまそれを思い出したので、世間話のような感じでそれを弟に話したところ、彼は実はアニメ聖地巡礼にも詳しく、『けいおん！』は『らき☆すた』と同じ京都のアニメ制作会社がつくっているから、同じように人がいっぱい来るかもしれないとアドバイスされたのです。」

そのアドバイスを受けて以降の清水さんの動きは、実にスピーディで、「豊郷でも鷲宮のように何かをやってみよう！」とすぐさま動き出すのだが、実は、豊郷と鷲宮では、聖地を生かした観光振興やまちづくりを行うのに、ある決定的な違いがあった。鷲宮は、「らき☆すた」の制作側が舞台の一部だと正式に認めているのに対し、豊郷の

場合、「けいおん！」の制作側は、当初から今に至るまで、一切認めていないのである。その中で清水さんたちがどのように具体的な取り組みを行ったのかを今回取り上げるわけだが、その前にまず、制作側は認めずとも、「けいおん！」ファンが「舞台のモデルはここに違いない」と断定するほど特徴を持った豊郷小学校旧校舎について紹介しよう。

丸紅の大番頭・古川鉄治郎が資金を出し ヴォーリスが設計した「豊郷小学校旧校舎」

そもそも町立豊郷小学校は、1873年（明治6年）にまでその始まりを遡ることができる、歴史ある小学校である。その中で、1937年（昭和12年）に建てられた旧校舎は、卒業生の一人であった古川鉄治郎（資料3）が、「国運の進展は国民教育の振興にある」と考え、故郷の学び舎のために私財を投げ打ち、当時60万円（現在の物価で数十億円）の建設資金を全額提供した。鉄治郎から依頼を受けたアメリカ人建築家・ヴォーリス（資料3）は、鉄治郎の思いをしっかりと受け取り、西洋建築の粋を凝らし、東洋一として内外に広く知られる小学校舎を設計したものである。

白い鳥が左右に大きく翼を広げたかのような優美な外観。玄関前の噴水、実習農園、木製の長椅子が設置された講堂、高い天井を持つ図書館に加え、運動施設としては体育館、プールの他、400m



豊郷小学校旧校舎外観。改修工事により、建築当時の白亜の殿堂に戻った

【資料3】

【古川鉄治郎とウィリアム・メリル・ヴォーリス】

古川鉄治郎 (1878~1940)

犬上郡豊郷村字四十九院生まれ。後の総合商社「伊藤忠」「丸紅」の創業者である初代伊藤忠兵衛は伯父にあたり、伊藤忠兵衛のもと丁稚奉公から商魂を鍛え、重役として活躍。海外にも支店や出張所を持つ丸紅商店の大所帯を切り回し、半世紀にわたり、繊維業界、また大阪財界の発展に寄与した。

ウィリアム・メリル・ヴォーリス (1880~1964)

アメリカ・カンザス州生まれ。日本で数多くの西洋建築を手がけた建築家であり、事業家。1905年(明治38年)、24歳の時に、近江商人発祥の地の1つである滋賀県近江八幡にある滋賀県商業学校(現・八幡商業高等学校)の英語教師として来日。教師を辞めた後も、83歳でその生涯を終えるまで近江八幡に留まり、キリスト教伝道とその主義に基づく社会教育、出版、医療、学校教育などの活動を続けた。これらの事業を経済的に支えるために、近江商人たちをはじめとする多くの人々と力を合わせて、建築設計会社とメンソレータム(現メンターム)で知られる製薬会社などの企業活動を展開。建築家としては、学校、教会、YMCA、病院、百貨店、住宅など、手掛けた種類も様式も多彩なことで知られる。これは彼が、建築物を自分の建築作品として捉えるのではなく、それぞれに求められる機能を十分に発揮できる建物を設計しようとしたからである。

また、第二次世界大戦終戦直後、マッカーサーと近衛文麿との仲介工作に尽力したことから、「天皇を守ったアメリカ人」とも称されている。

(豊郷町役場・旧豊郷小学校ホームページ、『滋賀ガイド』ヴォーリス来日100周年特集より)

トラックがとれる水はけの良い運動場も設置した。これらの建物群は、当時としては非常に珍しい鉄筋コンクリート造りで、暖房設備や水洗トイレまで完備されたものだが、このコンクリートで覆われたアールデコ調の建物群は、決して無味乾燥とした冷たい場所ではなく、何よりくつろぎながら学べる工夫が随所に見られる、子どもたちへの優しさと思いやりにあふれたものだった。その1つが、校舎の階段の手すりに施されたイソップ童話「ウサギとカメ」の物語を彷彿とさせる装飾。これは、「歩みは遅いが着実に夢を進めるカメがやがてウサギを追い越す」という、鉄治郎の願いをヴォーリスが見事に具現化したものである。

そして、外観はもとより、このウサギとカメの装飾のある階段の手すりをはじめ、校舎内の細部

の様子が「けいおん！」に登場する場面と酷似していることから、製作側が認めずとも、「作中の校舎のモデルは間違いなく豊郷小学校旧校舎だ」と、放送開始直後からファンの間では「聖地」として捉えられるようになったのである。

解体危機を乗り越えたことで、
新たな脚光も浴びる「豊郷小学校旧校舎群」

しかし、ここで疑問が残る。2009年4月に放送が開始された時は、まだ一般公開前。なぜ、ファンたちは酷似していることを知ることができたのだろうか？

「ファンの中に豊郷小学校の卒業生もいるでしょうから、彼らから発信された可能性もあるでしょうが、1999年(平成11年)の解体か存続かの大騒動の様子を、マスコミを通じて見ていた人たちの記憶に残っていたこともあるようです。」

築60年ほどたった1999年(平成11年)、老朽化と耐震性を理由とする解体計画が当時の町長より出され、町議会もこれを賛成多数で承認した。これに対し、卒業生を中心とする住民たちで結成された「豊郷町の歴史と未来を考える会」が熱心な校舎保存運動を展開する一方で、解体工事の強行やりこみによる町長失職などの騒ぎもあり、全国的に注目を集めた。結果的には、裁判などを経て、旧校舎は2007年に保存されることで決着し、その後耐震や改修の工事が行われ、現在の施設に生まれ変わったのである。

こうした経緯をワイドショーなどを通じて見ていたアニメファンが、「けいおん！」を見た時に「このウサギとカメ、どこかで見たような？」とネット上に書き込みすると、そこから一気にさまざまな情報が集まり、ファンの中では、旧校舎群の一般公開前からすでに、ここを聖地と特定していたということのようだ。

2. 豊郷流「アニメ巡礼型まちづくり」の特徴

全国からのファンの“登校”を予測し、先手を打った「町の若手有志」たち

こうした背景のもと、清水さんが友人や弟のアドバイスを受けながら、まず、目をつけたのが、「豊郷小学校旧校舎群が5月30日に一般公開になるから行こう！」というネットの書き込みだった。ファンの一部がその書き込みで盛り上がっている状況を知った清水さんは、ファンが来る5月30日の竣工式に、ファンと交流できる何かの仕掛けをしたいと商工会や観光協会に打診したのである。

「年配の方には理解されない分野ということもあって、商工会や観光協会という団体に動くことはいろいろな制限があり難しかったのですが、そういった団体に活躍する人たちの中から、当時商工会青年部の部長であった宮川博史さんなど若手有志が集まってくれました。

こちらとしては、せっかくのチャンスを生かすために『ファンの中でモデルとされている』という形で、ゲリラ的にでもやるしかない。しかし、結果的には、それが非常に良かったのではないかと思います。アニメ聖地巡礼によるまちおこしの一番の課題は、『いつ終わるかわからないブームにどううまく乗るか』ということ。そのためには、始めようと思った時に始められるというか、いろいろなことにすぐに動けるように身を軽くして、フレキシブルに対応していくことが重要ですから。」

『けいおん!』でまちおこし実行委員会が発足し、「カフェ」を開店

当時商工会青年部の部長であった宮川博史さんをリーダーに集まったグループは、便宜上、『けいおん!』でまちおこし実行委員会」と名付けられ、6月27日に活動を開始。まず、ファンや地元の人が交流する場として、旧校舎群の一つである旧図書館（現在はギャラリー・観光案内所）内で、週末（当初は不定期、現在は毎週土日祝）にだけ

オープンする「カフェ」をスタートさせた。これは5月30日の竣工式の時、“登校”してくれた巡礼者たちに、この聖地に何を望むかについて情報交換をした結果、最も多かった『『けいおん!』のシーンと同じように部室でお茶をしたい』という要望に応じてのもの。施設の管理上、部室のモデルとされる3階の会議室でお茶を提供することはできないが、少しでもファンたちの“居場所”を提供できればということだ。

地元情報発信ブログ「今日の部室」の立ち上げ

さらに、2009年の6月10日には、実行委員会のメンバーの一人である「どんきちさん」による、豊郷と「けいおん!」を結ぶ地元情報を発信するブログ「今日の部室」が立ち上がった。開設から2年間で170万件を超えるアクセスがあり、以降、このブログから情報を得て、豊郷を訪れるファンが急増。全国各地から、続々と「痛車」(※1)に乗って駆け付けるようになった。



豊郷小学校旧校舎群での出来事などを紹介する地元情報発信ブログ「今日の部室」。イベントやグッズ販売の告知もこのブログで行われる (<http://bushitsu.blog47.fc2.com/>)

※1 痛車 (いたしゃ)

車体にマンガ・アニメ・ゲームのキャラクターやロゴをかたどったステッカーを貼ったり塗装を行うなどして装飾された自動車のこと。「見ていて痛々しい車」の意味が込められた俗語 (出典: wikipedia)

ファンたちによるアニメの舞台の再現

豊郷で起こっているもう一つの特筆すべき現象が、ファンによるアニメの舞台の再現だ。

ある時、一人のファンが、軽音楽部の部室のモデルとされる旧校舎3階の会議室に、主人公ゆかりのカスタネットを置いた。すると、それ以降、

他のファンたちも次々とアニメに登場する備品を持ち寄り、そっくりの部室ができあがったのである。

休日に「カフェ」がオープンする旧図書館棟にも関連品が所狭しと並ぶ。主人公と同じ形のギターやドラムセット、誕生日の祝電などがずらりと並ぶ。全て、ファンが持ち寄ったものだ。



ファン発案による 「けいおんがく！ライブ」の開催

ファンに“居場所”を提供することで生まれた、豊郷流「アニメ巡礼型まちづくり」のもう一つの特徴的な取り組みが、ファンの発案によるイベントの開催である。

まず、2009年9月21日に、アニメ「けいおん！」の中でライブ会場として描かれていた旧校舎群の講堂において音楽ライブイベント「第1回けいおんがく！ライブ」が開催されたが、これは、正確には豊郷町によって企画・運営されたものではない。『「けいおん！」でまちおこし実行委員会』でも、「けいおん！」に関連するイベントを開催したいと早くから検討されていたのだが、何のノウハウも持たない田舎の若者達にはどうして良いのかわからず、開催に至っていなかったのである。そんな中、旧校舎群を度々訪れる熱心なファンであり、mixi（※2）で活動している大阪のグループの発案・主催で、「mixiのオフ会（※3）」という形をとり、参加者約250人を数える音楽イベントが実施されたのである。実際の運営には、実行委員会のほか、豊郷町商工会青年部や地元住民も携わり、屋台などの出店なども行い、協力している。

旧校舎の外へ

こうした中、個人や各種団体によるさまざまな取り組みも自然発生的に起こっている。「けいおんがく！ライブ」が開催された9月には、TBS公認グッズの「けいおん！コースター」が発売されたのだが、これは、地元有志によってつくられたものである。豊郷町の大工が犬上郡多賀町で購入したヒノキの間伐材を使い、コースターの形に形成。それに甲良町のデザイナーが施したデザインをもとに、レーザー加工などを手掛ける豊郷の刺繍屋が絵柄をレーザーで掘って仕上げた。さらに翌年4月には8種類の新絵柄でミニコースターを販売。これを旧校舎内の土産物売り場で販売す



※2 mixi（ミクシィ）

人とのつながりをサポートする、コミュニティ型のウェブサイト『ソーシャルネットワーキングサービス（SNS）』の一つ。

※3 オフ会

インターネット上で知り合った者同士が実際に集まること。



うどんの玉屋さんの座敷に掛けられたファン寄贈の掛け軸

るだけでなく、取り扱いを町内の14店舗に分散。埼玉・鷲宮の手法を参考に、8種類のうち、Aのデザインは〇〇店のみ、Bのデザインは△△店のみという販売方法を取り、8種類全部を揃えるためには最低でも8店舗を回らなければいけないという、ファンに町内の店舗めぐりをさせる仕組みを導入したのである。このグッズ販売を通し、店舗とファンの交流が始まり、そのうち3店舗（うどんの玉屋さん、宮川石油さん、お菓子のきょうかどうさん）は現在、豊郷に来たら旧校舎群とともに、必ず立ち寄る定番のコースになっている。ファンは3店舗を訪れるたび、自主製作のグッズなどを店側に提供。それをまたファンが見に来る→置いていく→見に来るという循環が起っており、2次観光が生まれているのである。

町の魅力の再発見

そして、こうしたことをきっかけに、ファンたちがさらに豊郷のまちづくりへの参加を始め、地元の人たちが自分たちの町の魅力を再発見することにも結びついているのである。

子どもたちに飛び出し注意を呼び掛ける「飛び出し坊や」をご存知だろうか？ 関東地方ではほとんど見かけることはないが、関西地方では交通安全イラスト看板として設置されているところも多い。特に滋賀県での設置数やバリエーションが非常に多いことから、一部のマニアの間では脚光を浴びている滋賀県名物なのである。これに目を



校舎群の一つである「旧酬徳記念図書館（現ギャラリー・観光案内所）」内のカフェで、「けいおん！」の登場人物の誕生日会を行なうファンたち

つけたファンの一人が「けいおん！」のキャラクターをモデルにした図案をつくり、豊郷で出会った他のファンや地元の人とともに5種類（後にもう5種類追加）の「飛び出し女子高生」を製作。2010年6月から豊郷町内各地に設置された。観光客に町内を回らせる戦略のため、あえて設置場所は公表せず、さらに各メディアなどでも取り上げられたため、多くの観光客がこれを目当てに訪問。滋賀県の観光にもインパクトを与える結果になるとともに、飛び出し人形が滋賀県の名物であることを地元で再発見するきっかけにもなったのである。

豊郷には仲間がいる

始まりは、「豊郷小学校旧校舎群」という文化財として多様な価値を持ち、住民パワーでその保存と公開が決まった歴史的建造物と、一般的には“オタク文化”と位置づけられる「アニメ聖地巡礼」が、アニメ「けいおん！」をきっかけに結ばれたことだった。

今、聖地化を促進して以降、豊郷町は、変わらない部分と変わりつつある部分の間にいる。

正直、まちの目抜き通りの中山道を、楽器を担いだり、大きな旅行鞆を持つ若い人達が闊歩する光景や、痛車の走行に戸惑う住民もいる。しかし、「彼らとのふれあいが、新たな魅力を持つ町へと生まれ変わる大きなきっかけになりつつある。」と清水さんは言う。

そして、観光という視点では本来、お客様側の立場である巡礼者（ファン）も、豊郷では迎える側に立ち位置を変え、楽しんでいる人たちも多い。旧校舎群では、これまで「けいおんがく！ライブ」や登場人物たちの誕生日会をはじめ、さまざまなイベントが次々と開催されてきた。「桜高文化祭」と名付けて開催された同人誌即売会は、1,500人もの人出を集め、地域のお祭りでは100問にも及ぶ「けいおん！検定」も実施されている。これらの多くは、実行委員会や商工会など町側が自ら考えたものではない。「アイデアはファンがもって

きてくれる」のだ。さらにファンたちは、交通費も自前でこれらのイベント運営に参加する。「カフェ」も今や、ファンが遠方から通ってきて手伝えることは珍しくない。

ファンたちは、この豊郷を仲間がいる“居場所”として考えているのである。だから、少しずつだが、単なる『『けいおん！』ファン』から「豊郷ファン」になっている人たちも少なくない。こうした彼らの活躍は、実は、旧校舎群の保存整備、管理運営のための「豊郷小学校旧校舎管理基金」にも大きく貢献している。ふるさと納税である同基金への直接の寄付は2010年度（平成22年度）には36件、2,345,120円に上っている。これは実行委員会によるカフェやグッズ販売などで得た売り上げからの寄付やファンによる寄付だけでなく、「けいおん！」ブームによって旧校舎の文化的価値を知った人たちからも多数の寄付が寄せられた結果である。



ファンが手作りした「豊郷」のガイドブック

オタクというと、コミュニケーションが上手くないというイメージを持たれることが多いが、実は高度なコミュニケーションスキルを持つ人たちも多いことを清水さんたちは感じている。また、彼らが得意とするものづくりを、豊郷のために活かしたいと考える人たちも多い。

「これからファンと地元住民がどのようにつながっていくか。」今、そこへの模索が始められている。

日付	「けいおん！」によるまちおこしに関わる主な動き	
2009年 4月	アニメ「けいおん！」放送開始（4月2日～6月）	
5月	<p>豊郷小学校旧校舎竣工式典・一般公開開始（5月30日）</p> <p>[町] 清水さんの働きかけで、主に古民家改修・再生を行っていたNPO団体「豊郷まちづくり委員会」が、一般公開のイベントとして昼食用うどん屋を出店。ファンとの情報交換やファンリサーチを敢行。</p> <p>[フ] 一部のファンは、ポータブルDVDプレイヤーを持参し、地元の人たちに「けいおん！」のアニメを実際に見せ、その中に旧校舎と酷似する風景が出ているシーンがあることを紹介。</p> <p>初の「痛車」来校（5月31日）</p> <p>[フ] 一般公開開始日の翌日（日曜日）もファンが次々来校。2～3台の「痛車」も来校。当初、土日を休館予定としていたが、「開けてほしい」という問い合わせが旧校舎を管理する教育委員会や町役場に殺到。⇒検討の結果、年末年始を除き、校舎群の休館日を設けないことに決定。</p>	<p>町：町役場関係 青：商工会青年部 実：「けいおん！」でまちおこし実行委員会 個：個人 フ：ファン 学：大学等 企：企業 N：NPO</p>
6月	<p>『『けいおん！』でまちおこし実行委員会』発足</p> <p>[実] 商工会青年部部長・宮川さんを委員長に、NPO・豊郷まちづくり委員会、商工会青年部、観光協会、役場職員などから名乗りを上げた有志とその友人を巻き込み、10人弱で発足。30代後半～40代前半の人が中心。⇒ただし、会員名簿も総会もないため、正式に公表されたものはない。</p> <p>[フ] 後に県内外のファン（常連の観光客有志のグループ）が、ライブ開催時のスタッフやカフェスタッフとして活動に参加し、実行委員会の実質的なメンバーとなっている。</p> <p>『けいおんカフェ』開設⇒以降、基本的に毎週1回開店（6月27日）</p> <p>[実] 5月30日の竣工式典イベントでのファンリサーチをもとに、校舎群の一つである「旧酬徳記念図書館（現ギャラリー兼観光案内所）」内に「カフェ」を開設。⇒ファンたちの“居場所”となる。カフェの収益金は学校舎管理基金に一部寄付し、残りはイベントなどの運営資金としてプール。</p> <p>地元情報発信ブログ「今日の部室」、立ち上げ</p> <p>[実] 実行委員会のメンバーである、地元の「どんきちさん」による地元情報発信ブログ「今日の部室」がスタート。⇒各種イベントやファンの交流窓口。</p>	

8月	<p>とっと祭りイベントの一つとして講堂で高校生ライブを開催（8月1日） [町・実]豊郷の夏祭り「とっと祭り」のイベントの一つとして、旧校舎群の講堂にて高校生ライブを開催。「けいおん！」の主題歌などを彦根工業高と草津東高の軽音楽部が演奏。</p> <p>初のグッズ（写真集）を発売（8月8日） [実]実行委員会として初の豊郷小学校旧校舎群グッズを発売。</p> <p>立教大学・北海道大学による巡礼者アンケート開始（8月11日～9月末） [学]アニメ「らき☆すた」の聖地としてまちづくりに取り組む埼玉の鷲宮町（現在の久喜市）の事例など、観光資源としてのコンテンツを考えることに取り組む大学の研究グループによるアンケートの実施。</p> <p>初の新聞掲載（8月15日・京都新聞 とっと祭り・けいおん） [マ]8月1日の夏祭り「とっと祭り」でのライブを取り上げ、「TVアニメ“舞台”に ファン続々 活気のリズム」として紹介される。⇒以後、定期的に何かを仕掛けて、マスコミによる「アニメの聖地・豊郷」の認知を求める。2011年7月現在まで、マスコミに取り上げられた回数は約100回に上る。</p> <p>ファンからカフェの看板寄贈（8月29日） [フ]以後、ファンによる寄贈が相次ぐ。</p>
9月	<p>TBS公認「けいおん！」グッズ（キーホルダー）販売（9月6日） ⇒限定200個 @750円、15分で完売 [個]有志の1人が、主要メンバー4人のものを50個ずつ製作。モデルの場所としての公認は得られないものの、グッズ販売に関してはTBS公認の許可をもらう。公式ブログにて告知したところ、朝から行列ができ、発売後15分で完売。 以後、個人や各種団体がさまざまなグッズを製作し、販売する流れへ。</p> <p>第1回けいおんがく！ライブ（参加 約250人）（9月21日） [フ・実]mixiで活動している大阪のグループの主催でオフ会として開催。ファンが結成するアマチュアバンド4組が出演。実行委員会としては、場所の提供とともに、屋台などの出店でも協力。 [学]立教大学・北海道大学によるライブアンケート実施。</p>
11月	<p>ファン有志による校舎掃除イベント（11月7日） [実・フ]参加20人。</p> <p>第2回けいおんがく！ライブ（参加 約150人）（11月22日） [学]立教大学・北海道大学によるライブアンケート実施。</p> <p>TBS公認グッズ（木製コースター）販売（11月22日） [実]豊郷の商工会青年部のメンバーであり実行委員会のメンバーが、9月に犬上郡3町（多賀、甲良、豊郷）の産業交流を目指し製作した木製コースター「けいおん！コースター」を土産品として販売。</p> <p>日本観光研究学会 第24回全国大会開催（11月22日） [学]北海道大学と立教大学の研究者がアンケート結果を学会で発表。初めて豊郷町の事例が学術論文として世に出る。</p> <p>ファンによる唯ちゃんお誕生日会（参加 約25人）（11月27日）</p>
12月	<p>校舎ライトアップ開始（12月20日） [実]12月27日には校舎ライトアップイベント実施。 横浜アリーナにて、公式声優ライブ開催&アニメ2期製作発表</p>
2010年 1月	<p>ファンによる滯ちゃんお誕生日会（参加 約70人）（1月16日） 宮川石油によるレンタサイクル営業開始（1月28日） [実]実行委員会委員長の宮川さん経営の「宮川石油」で、観光客向けのレンタサイクルの営業を開始。 ファンによるさわちゃん先生お誕生日会（参加 約20人）（1月31日）</p>
2月 ～3月	<p>ファンによる憂ちゃんお誕生日会（参加 約40人）（2月20日） 実行委員会、売上を寄付（50,000円） [実]カフェやグッズ販売の売り上げの一部を豊郷小学校旧校舎活用寄付金へ寄付。</p>
4月	<p>TBSにてアニメ2期が放送開始（関西・MBSは10日～） G.W.中に巡礼者アンケート開始（立教大学・北海道大学）</p>
6月	<p>飛び出し人形の製作、設置</p>

7月	<p>ファンによるムギちゃんお誕生日会（参加 約150人）（7月3日） 実行委員会、売上金（160,550円）を寄付（7月14日） [実]グッズ販売の売り上げを豊郷小学校旧校舎活用寄付金へ寄付。 商工会青年部によるカキ氷販売開始（@300円） [青]小学校敷地内の特設テントにて8月29日までの毎週日曜日に実施。 近江鉄道が「けいおん!!」切符を発売（7月28日） ⇒@660円 2,000枚、即日完売 [企]キャラクターが描かれた豊郷駅入場券+同駅から520円区間の乗車券+記念台紙のセットを発売。</p>
8月	<p>郵便局が豊郷小旧校舎の記念切手シートを発売（8月2日） ⇒@1,200円 1,000枚 [町・N・企]旧校舎の写真を印刷した台紙+80円切手10枚のセットを発売。地域活性化の一環として郵便局側から町に提案。NPO法人「豊郷まちづくり委員会」によるデザイン。 とと祭り（過去最高の3,000人が参加）（8月7日） [町・N・企]講堂にて高校生のライブや検定クイズなどを開催。 ファンによる律ちゃんお誕生日会（参加 約40人）（8月21日）</p>
9月	<p>埼玉県鷲宮町（現在の久喜市）・鷲宮神社の土師祭に参加（参加 19人） [実・フ]実行委員会とファンの有志で参加。観光PRと物販を実施。 映画化発表（9月29日）</p>
10月	<p>「アニソンライブ2010」を開催（無料 参加 約400人） [青]商工会青年部主催によるアニメソングのライブを商工会創立50周年記念イベントの一環として開催。講堂にて、アマチュアバンド4組がアニメ主題歌を演奏。 ファンによる、桜高文化祭（同人誌即売会）（参加 約1,500人） ファンによる唯・梓お誕生日会（参加 約300人）</p>
2011年 2月	<p>さいたまスーパーアリーナにて、公式声優ライブ開催 映画の公開日程が12月3日～と発表</p>
4月	<p>ファンによる、桜高新入生歓迎会（同人誌即売会、参加 約1,500人）（4月29日） [フ・企]ファン主催の「桜高新入生歓迎会」とタイアップし、近江鉄道が新歓記念切符を発売。</p>
7月	<p>ビワコビジターズビューロー取材（7月2日） [県]外国人向け情報発信として、英語版パンフレットにも紹介される。</p>